

福井県埋蔵文化財調査報告 第106集

# 林・藤島遺跡泉田地区

— 一般県道大畑松岡線道路改良工事に伴う調査 —

第1分冊  
— 本文編 —

2009

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

## 序 文

林・藤島遺跡泉田地区は道路改良工事に先立ち福井市泉田町で平成8年度から15年度まで8年間に渡って発掘調査された遺跡です。

林・藤島遺跡は縄文時代から中世にいたる大規模な集落群で、昭和35年に明治大学が林地区で調査を実施して以来、弥生時代後期から古墳時代初頭の良好な遺跡として知られてきました。

泉田地区での発掘調査によって、弥生時代後期に営まれた多くの住居跡や大規模な玉作工房、当時まだ貴重品であった鉄製品が大量に発見され、北陸でも有数の弥生時代集落遺跡であり、学術的にも重要な遺跡であることが判りました。また、福井県では2例目となり最大規模の古墳時代の水田跡が確認され、古くから穀倉地帯であることも証明されました。

林・藤島遺跡は保存状態が良く、今回調査した箇所周辺部にも貴重な遺跡が残っている可能性が極めて高いと言えます。今後はその保存にも力を入れていく必要があることはいうまでもありません。

最後になりましたが、発掘調査から刊行にいたるまで、関係機関をはじめ、地元の皆様から多大なご協力・ご支援を賜りましたことを、深く感謝いたします。

平成21年3月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

所 長 吉 岡 泰 英



## 例 言

- 1 本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが県道大畑松岡線道路改良工事事業に伴い、平成8年度から15年度にかけて実施した林・藤島遺跡泉田地区（福井県福井市泉田町所在）の発掘調査報告書である。
- 2 林・藤島遺跡泉田地区の発掘調査は、福井土木事務所の依頼を受けて福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、主査（のち主任）富山正明、嘱託職員（のち文化財調査員）野路昌嗣、嘱託職員（のち文化財調査員）坪田聡子（平成8年度）、嘱託職員西島伸彦（平成9年度～平成10年度）、嘱託職員廣島秀俊（平成9年度～平成10年）、嘱託職員奥村牧弘（平成11年度～平成15年度）が担当した。
- 3 発掘調査は、平成8年5月6日から平成15年12月19日まで実施した。出土遺物の整理作業、平成9年4月1日から平成20年12月まで、福井県埋蔵文化財調査センターにて実施した。
- 4 本書の編集は富山があたり、野路、主査山本孝一、嘱託職員山口充が分担して執筆した。なお、執筆の分担は以下の通りである。  
富山：第1章～第4章、第5章第4節、第6章第1節、第3節、野路：第5章第1～3節、第6～8節、第6章第2節、山本：第5章第9節、山口：第5章第5節
- 5 林・藤島遺跡に関するこれまでの成果発表のうち、本書と齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 検出遺構のトレース図化は株式会社セビアス、出土遺物のトレース図化は株式会社イビソク、株式会社国際航業、株式会社セビアス、株式会社アルカに委託して主として実施し、他は福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。写真撮影は、遺構は富山が、遺物は主任鈴木篤英が行った。
- 7 遺構全体図は、株式会社イビソク、株式会社アジア航測に委託して作製した。
- 8 遺物実測図と写真図版などの遺物番号は符号する。写真縮尺は不同である。
- 9 本書における水平レベルの表示は、海拔高（m）を示し、方位は真北を用いた。
- 10 本書に掲載した遺物と調査に際して作製した図面・写真は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管してある。

## 凡 例

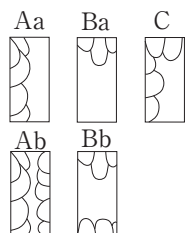
- 1 本書で用いた遺構番号は、以下のとおりである。

上層（中世） 掘立柱建物：SB01～、土坑：SK01～、溝・溝状遺構：SD01～、井戸：SE01～、ピット：グリッド番号SP01～（例A10SP01）

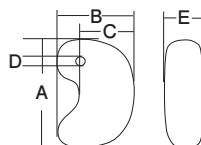
下層（弥生・古墳）住居跡：SI01～、掘立柱建物：SB101～、土坑SK5001～、溝・溝状遺構：SD1001～、井戸：SE101～、不明遺構：SX01～、ピット：グリッド番号SP101～（例A5SP101）

- 2 管玉未成品の観察表内分類と勾玉計測値の略称は下記の通りである。

管玉側面調整  
の分類



勾玉計測  
凡例



# 目 次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 遺跡の概要	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 グリッド設定と標準土層	12
第4章 遺構	27
第1節 下層（縄文・弥生～古墳時代前期）の遺構	27
1 東地区の遺構	27
2 中地区の遺構	75
3 西地区の遺構	127
第2節 中層（古墳時代後期）の遺構	155
第3節 上層（中世）の遺構	165
第5章 遺物	185
第1節 弥生時代～古墳時代前期の土器	185
第2節 石器	355
第3節 石製品	368
第4節 玉製作関連遺物	377
第5節 鉄製品	411
第6節 木製品	427
第7節 古墳時代後期～平安時代の遺物	433
第8節 中世の遺物	434
第9節 縄文時代の土器	448
第6章 まとめ	455
1 遺構について	455
2 土器について	456
3 玉製作について	458

## 写真図版目次 (第2分冊)

- 図版第1 遺跡1遠景(西から)2遠景(西から)
- 図版第2 遺構(下層東地区)1.東地区全景2.東地区遺構全景3.東地区遺構全景
- 図版第3 遺構(下層東地区)1.SI01北、2.SI01南、3.SI01SK5041遺物出土状況、4.SI01遺物出土状況、5.SI03、6.SI03P3、7.SI03P1、8.SI03P1半裁
- 図版第4 遺構(下層東地区)1.SI06、2.SI06伏甕3.SI06床面遺物4.SI08、5.SI08床面遺物6.SI09・10、7.SI09床面土器、8.SI05、9.SI07
- 図版第5 遺構(下層東地区)1.SI01・11・14、2.SI11、3.SI12、4.SI13、5.SI15東半部、6.SI15西半部、7.SI16上層、8.SI16下層
- 図版第6 遺構(下層東地区)1.SI19・20、2.SI20中央土坑、3.SI19、4.SI19床遺物、5.SI22、6.SI21、7.SI19・21・228.SI23
- 図版第7 遺構(下層東地区)1.SB101、2.SB102、3.SB108、4.SB107、5.SB112、6.SB110、7.SB114
- 図版第8 遺構(下層東地区)1.掘立柱建物群、2.SB106、3.SB111、4.SE101、5.SE102、6.石組柱穴、7.石組柱穴断面
- 図版第9 遺構(下層東地区)1.SK50742.SK5125、3.SK5071、4.SK5100・5101、5.SX05、6.SK5044、7.SK5044北半部、8.SK5033、9.SK5075
- 図版第10 遺構(下層東地区)1.SD1002上面土器、2.SK5162上面土器、3.A36区土器集積、4.A36区土器集積内壺、5.A5区埋設土器、6.A30区出土壺、8.C30区出土壺
- 図版第11 遺構(下層東地区)1.遺物出土状況、2.A33区土器集中区、3.D10玉材集積、4.A36SP101打製石斧、5.3区墳礫、6.墳礫断面、7.A3区墳礫周辺土器集中、8.A30区土器集中区
- 図版第12 遺構(下層中地区)1.調査区東半部全景、2.調査区西南側溝部全景、3.調査区西半部全景(東から)、4.調査区西全景西から)
- 図版第13 遺構(下層中地区)1.SI26南半部、2.SI26P3上面土器、3.SI26床面土器、4.SI26北半、5.SI34、6.SI33、7.SI24
- 図版第14 遺構(下層中地区)1.SI25西半部、2.SI31南半部、3.SI25東半部、4.SK5292遺物出土状況、5.SI35全景、6.SI35中心部
- 図版第15 遺構(下層中地区)1.SI36遺物出土状況、2.SI36、3.SI32、4.SI38、5.SI30、6.SI30墳礫、7.SI30立石、8.SI30墳礫断面
- 図版第16 遺構(下層中地区)1.SB126、2.SB117から)、3.SB120、4.SB118、5.SB116、6.SB124
- 図版第17 遺構(下層中地区)1.SK5352、2.SK5352遺物出土状況、3.SK5342、4.SK5336、5.SK5382、6.SK5257、7.SK5266、8.SK5339
- 図版第18 遺構(下層中地区)1.SK5326、2.SK5383、3.SD1121、4.SK5351、5.SK5308・5309、6.SK5322、7.SD1125・1126、8.SK5394、9.SK5232
- 図版第19 遺構(下層中地区)1.SK5314、2.A95区玉材出土状況、3.B120区台付壺、4.B120区台付壺内煤、5.C113SP103立石、6.A96区白色粘土、7.立石、8.B98SP101柱痕
- 図版第20 遺構(下層中地区)1.川4全景(北から)、2.SF02、3.SF01、4.SF02石列、5.SF01石積、6.B91区川4内土器、7.A88区川4肩部土器、8.B91区川4内土器
- 図版第21 遺構(下層中地区)1.川5東岸抉入部、2.川5東岸、3.川5抉入部木材集積、4.川5東岸抉入部北、5.川5内木製品、6.川5内撥形木製品、7.川5内剣型木製品
- 図版第22 遺構(下層中地区)1.85・86区谷全景、2.85・86区谷遺物、3.谷肩土器、4.谷部土器出土状況、5.A96区土器、6.A82区土器
- 図版第23 遺構(下層中地区)1.SD1051・52・60・61、2.SD1052上面出土土器、3.SD1054、4.SD1054断面、5.SD1056、6.SD501
- 図版第24 遺構(下層中地区)1.C99区土器、2.B103・104土器、3.BC113土器、4.BC113土器、5.SD1107東ピット内土器、6.B95土器集中、7.A82打製石斧、8.A82区打製石斧
- 図版第25 遺構(下層中地区)1.SD1101、2.SD1101土器、3.SD1101土器、4.SD1110・1111・1113、5.SD1088、6.SD1082・1092
- 図版第26 遺構(下層西地区)1.東半部遺構全景、2.東半部主要部、3.西半部遺構全景、4.西半部主要部
- 図版第27 遺構(下層西地区)1.SI41、2.SI40、3.SI39、4.SI43、5.SI44、6.SI42、7.SI44炭化材、8.SI39白色粘土、9.SI42P8管玉
- 図版第28 遺構(下層西地区)1.SI45、2.SI45焼失中心部、

- 3.SI45完掘、4.SI45P3柱痕、5.SI45P5柱痕、6.炭化材、7.SI49全景、8.SI49床遺物、9.SI49中心部
- 図版第29 遺構（下層西地区）1.SI48全景、2.SI48中心部、3.SD1159内遺物、4.SD1157内遺物、5.SI47、6.SI47遺物、7.SI46、8.SI46床遺物
- 図版第30 遺構（下層西地区）1.川5全景、2.堰状遺構（北東から）、3.堰状遺構近景、4.堰状遺構（西から）、5.編代、6.川5木製品、7.網籠、8.木片出土状況
- 図版第31 遺構（下層西地区）1.SD1134全景（西から）、2.SD1134断面、3.SD1134北岸土器、4.SD1133、5.SD1158断面、6.SD1158内土器
- 図版第32 遺構（下層西地区）1.SK5442、2.SK5474、3.SK5540、4.SK5429、5.SK5472、6.SK5456
- 図版第33 遺構（下層西地区）1.E141区集中区甕、2.E141区集中区长頸壺、3.T150区土器、4.土器出土状況、5.A126土器、6.SK5450土器棺、7.SK5459土器棺、8.SK5459断面
- 図版第34 遺構（中層水田面）1.30～72区全景（東から）、2.30～72区全景（西から）3.40～48区緩衝地区、4.緩衝地区土層断面、5.川2全景（北から）、6.畦と馬蹄跡
- 図版第35 遺構（中層水田面）1.75～96区全景（東から）、2.75～96区全景（西から）、3.96～121区全景（東から）、4.96～121全景（西から）
- 図版第36 遺構（中層水田面）1.123～142区全景（西から）、2.143～154区全景（北東から）、3.SD1134上層、4.SD1134上層取水口、5.C137土器出土状況、6.取水口？
- 図版第37 遺構（中層水田面）1.足跡集中地区、2.歩行状況、3.検出状況、4.集中区拡大、5.足跡拡大、6.足跡拡大
- 図版第38 遺構（上層中世）1.1～27区北半部全景（西から）、2.1～27区南半部全景（東から）、3.SB01・02、4.SB01、5.SB02、6.SB04
- 図版第39 遺構（上層中世）1.SB05、2.SB06、3.30～63区南半部全景（西から）、4.30～63区北半部全景（東から）、5.SB07、6.SB10・11
- 図版第40 遺構（上層中世）1.SE01、2.SE02、3.SE03・04、4.SE04断面、5.SK25、6.SK32、7.SK39、8.SK38
- 図版第41 遺構（上層中世）1.SK41、2.SK19・20、3.SK30、4.畝状遺構、5.畝状遺構、6.SD42南半部全景、7.SD42近景
- 図版第42 遺構（上層中世）1.97～121区南半全景（東から）、2.97～121区全景（東から）、3.SB08、4.SK54、5.SK42、6.SK45
- 図版第43 遺構（上層中世）1.SE06全景、2.SE06縦板枠と曲物枠、3.SE06遺物出土状況、4.漆椀出土状況、5.SE06井戸枠側面、6.SE06曲物枠側面、7.83・84区溝列、8.丸軋出土状況
- 図版第44 1.123～142区全景（東から）、2.123～142区全（西から）、3.SB09、4.SK61、5.SK64、6.SD123・126
- 図版第45 遺物（東地区住居）SI01
- 図版第46 遺物（東地区住居）SI01、SI中央土坑
- 図版第47 遺物（東地区住居）SI01中央土坑、SI03、SI07
- 図版第48 遺物（東地区住居）SI06、SI08
- 図版第49 遺物（東地区住居）SI08、SI11
- 図版第50 遺物（東地区住居）SI11、SI12、SI13
- 図版第51 遺物（東地区住居）SI15、SI19、SI20
- 図版第52 遺物（東地区住居）SI20、SI21
- 図版第53 遺物（東地区土坑）SK5043、5032、5033、5038、5039、5044、5045
- 図版第54 遺物（東地区土坑）SK5049、5050、5058、5059、5060、5071
- 図版第55 遺物（東地区土坑）SK5073、5074、5077、5078
- 図版第56 遺物（東地区土坑）SK5081～85、5087～89
- 図版第57 遺物（東地区土坑）SK5093～95、5100
- 図版第58 遺物（東地区土坑）SK5100、5110、5104、5108、5126
- 図版第59 遺物（東地区土坑）SK5127
- 図版第60 遺物（東地区土坑）SK5128～30、5138、5143、
- 図版第61 遺物（東地区土坑）SK5146,5147,5151,5152,5155,5159,5162,5163,5167,5173
- 図版第62 遺物（東地区溝）SD1002、1005、1006
- 図版第63 遺物（東地区溝）SD1007、1008、1018、1019、1032、1038、1041、1043、1048
- 図版第64 遺物（東地区その他の遺構）
- 図版第65 遺物（東地区土坑その他の遺構）
- 図版第66 遺物（東地区土器集中区）A3区、A7区
- 図版第67 遺物（東地区土器集中区）A8区、A33区
- 図版第68 遺物（東地区土器集中区）A34区、A35区、AB40区
- 図版第69 遺物（東地区土器集中区）A36区
- 図版第70 遺物（東地区土器包含層）
- 図版第71 遺物（東地区土器包含層）

図版第72	遺物（東地区土器包含層）	1129、1128
図版第73	遺物（東地区土器包含層）	図版第90 遺物（中地区土器その他の遺構・川4）
図版第74	遺物（東地区土器包含層）	図版第91 遺物（中地区土器川4）
図版第75	遺物（中地区土器住居） SI24、SI25、SI26	図版第92 遺物（中地区土器集中区）A82区、C・D93・94区、C95区、A・B95・96区、85・86区谷
図版第76	遺物（中地区土器住居） SI26、SI28、SI32、SI33	図版第93 遺物（中地区土器集中区）85・86区谷
図版第77	遺物（中地区土器住居） SI35、SI36	図版第94 遺物（中地区土器集中区）85・86区谷
図版第78	遺物（中地区土器土坑） SK5190、5191、5195、5198、5199、5200～5203、5205、5215、5207	図版第95 遺物（中地区土器集中区）85・86区谷
図版第79	遺物（中地区土器土坑） SK5210、5216、5225、5226、5228、5225、5231、5233、5235	図版第96 遺物（中地区包含層）
図版第80	遺物（中地区土器土坑） SK5242～5246、5256、5252、5257	図版第97 遺物（中地区包含層）
図版第81	遺物（中地区土器土坑） SK5257、5260、52725 266、5265	図版第98 遺物（中地区包含層）
図版第82	遺物（中地区土器土坑） SK5282、5283、5288、5296、5302、5306、5308	図版第99 遺物（西地区住居） SI41、SI42、SI40、SI45、SI47
図版第83	遺物（中地区土器土坑） SK5314、5324～5327、5336	図版第100 遺物（西地区住居・土坑） SI49、SK5427、5432、5434、5437、5450、5456、5416、5459、5464、5474
図版第84	遺物（中地区土器土坑） SK5339、5342、5346、5351、5352、5355、5359、5360	図版第101 遺物（西地区土坑・溝） SK5459、5450、SD1136、1155、1157～1159、1165
図版第85	遺物（中地区土器土坑） SK5361、5365、5367、5380、5385、5386、5390、5394、SD1052～54	図版第102 遺物（西地地区その他の遺構）川5
図版第86	遺物（中地区土器溝） SD1056、1062、1068～1070、1082、	図版第103 遺物（西地地区その他の遺構）川5
図版第87	遺物（中地区土器溝） SD1085、1086、1088、1091～1093、1095、1099、1100、1101	図版第104 遺物（西地地区包含層） E114集中区
図版第88	遺物（中地区土器溝） SD1101、1102、1107、1117、1113、1110、1111	図版第105 遺物（ミニチュア土器）
図版第89	遺物（中地区土器溝） SD1118、1121、1122、	図版第106 遺物（ミニチュア土器・石器）
		図版第107 遺物（石器）
		図版第108 遺物（石器）
		図版第109 遺物（石器・玉製作関連）
		図版第110 遺物（玉製作関連）
		図版第111 遺物（鉄製品）
		図版第112 遺物（鉄製品）

## 挿 図 目 次

第1図	道路計画路線図と調査ブロック図	2
第2図	周辺の地形	5
第3図	周辺の主要遺跡	8
第4図	グリッド配置図	11
第5図	標準土層図	12
第6図	東地区下層遺構全体図	折り込み
第7図	中地区下層遺構全体図	折り込み
第8図	西地区下層遺構全体図	折り込み
第9図	中層水田遺構全体図	折り込み
第10図	上層遺構全体図1	折り込み
第11図	上層遺構全体図2	折り込み
第12図	上層遺構全体図3	折り込み
第13図	SI01実測図	30
第14図	SI11・SI14実測図	31
第15図	SI06実測図	32
第16図	SI03実測図	33
第17図	SI08・SI02実測図	34
第18図	SI12実測図	35
第19図	SI13実測図	36
第20図	SI05実測図	37
第21図	SI07・SI09実測図	38
第22図	SI15実測図	39
第23図	SI16実測図	40
第24図	SI19実測図	41
第25図	SI20実測図	43
第26図	SI22実測図	44



第27図	SI20・22土層断面図	45	第72図	中地区土坑実測図 2	102
第28図	SI21実測図	46	第73図	中地区土坑実測図 3	103
第29図	SI23実測図	47	第74図	中地区土坑実測図 4	105
第30図	SI23全体図	48	第75図	中地区土坑実測図 5	106
第31図	SB101・SB102実測図	50	第76図	中地区土坑実測図 6	108
第32図	SB103・SB104実測図	51	第77図	中地区土坑実測図 7	109
第33図	SB105・SB106実測図	52	第78図	中地区土坑実測図 8	110
第34図	SB107・SB108実測図	53	第79図	中地区土坑実測図 9	112
第35図	SB109・SB110実測図	54	第80図	SD1056～1058実測図	113
第36図	SB111・SB112実測図	55	第81図	SD1051～1054・1060・1061実測図	114
第37図	SB113・SB114実測図	56	第82図	SD1082遺物出土状況図	117
第38図	SB101・SB102実測図	57	第83図	川 4 および入江状遺構平面図	118
第39図	東地区土坑実測図 1	59	第84図	川 5 東岸遺物出土状況図	119
第40図	東地区土坑実測図 2	60	第85図	85・86区谷部西肩土器集中区平面図	121
第41図	東地区土坑実測図 3	62	第86図	川 4 西岸遺物出土状況図	122
第42図	東地区土坑実測図 4	63	第87図	A・B94・95区Ⅷ層遺物集中区平面図	123
第43図	東地区土坑実測図 5	64	第88図	C・D92～96区Ⅷ層遺物集中区平面図	124
第44図	東地区土坑実測図 6	66	第89図	99～109区Ⅶb層遺物集中区平面図	125
第45図	東地区土坑実測図 7	67	第90図	113～117区遺物集中区平面図	126
第46図	SD1001・SD1002・川 1 平面図	69	第91図	SI39実測図	128
第47図	A～C 29・30区遺構図および遺物出土状況図	71	第92図	SI43実測図	129
第48図	東地区包含層遺物出土状況図	72	第93図	SI40実測図	131
第49図	A・B 32～36区包含層遺物出土状況図	73	第94図	SI41実測図	132
第50図	東地区包含層および層直上遺物出土状況図	74	第95図	SI42実測図	133
第51図	SI24実測図	76	第96図	SI44・SI48実測図	134
第52図	SI26実測図	77	第97図	SI46・SI47実測図	135
第53図	SI33実測図	78	第98図	SI45居住部と炭化材検出状況図	136
第54図	SI34実測図	79	第99図	SI45実測図	137
第55図	SI36実測図	80	第100図	SI49実測図	138
第56図	SI25全体図	82	第101図	西地区土坑実測図 1	140
第57図	SI25中心部実測図	83	第102図	西地区土坑実測図 2	141
第58図	SI25南遺物出土状況とSD1100・1101実測図	84	第103図	西地区土坑実測図 3	142
第59図	SI35全体図	85	第104図	西地区土坑実測図 4	143
第60図	SI31実測図	86	第105図	西地区土坑実測図 5	145
第61図	SI32・SI38実測図	88	第106図	西地区縄文時代の遺構実測図	146
第62図	SI27・SI30実測図	89	第107図	SD1134実測図	148
第63図	SB116・SB117実測図	90	第108図	SD1158実測図	149
第64図	SB118・SB119実測図	91	第109図	SD1157・SD1159・SK5471実測図	151
第65図	SB120・121実測図	92	第110図	川 5 平面図	152
第66図	SB122・SB123・SB124・SB125実測図	94	第111図	川 5 内堰状遺構および網籠出土状況図	153
第67図	SB126・SB127実測図	95	第112図	西地区Ⅷb層遺物出土状況図	154
第68図	SI25東側土坑群実測図 1	96	第113図	Ⅷ層上面検出溝実測図	156
第69図	SI25東側土坑群実測図 2	98	第114図	水田平面図 1 (34～39区・103～108区)	158
第70図	SD1086・SD1091遺物出土状況図	99	第115図	水田平面図 2 (51～60区)	159
第71図	中地区土坑実測図 1	100	第116図	水田平面図 3 (93～99区・136～142区)	160

第117図	水田平面図4 (144~150区) ……………	161	第161図	SK5087出土土器実測図 ……………	223
第118図	馬蹄跡平面図 ……………	162	第162図	東地区土坑出土土器実測図6 ……………	224
第119図	足跡平面図 ……………	163	第163図	SK5100出土土器実測図 ……………	225
第120図	足跡拡大平面図 ……………	164	第164図	東地区土坑出土土器実測図7 ……………	227
第121図	SB01・03実測図 ……………	166	第165図	SK5127出土土器実測図 ……………	228
第122図	SB04実測図 ……………	167	第166図	東地区土坑出土土器実測図8 ……………	229
第123図	SB05・06実測図 ……………	168	第167図	東地区土坑出土土器実測図9 ……………	230
第124図	SB07実測図 ……………	169	第168図	東地区土坑出土土器実測図10 ……………	231
第125図	SB08・09実測図 ……………	170	第169図	SD1002・1005出土土器実測図 ……………	232
第126図	SB10・11およびA48・49区ピット集中区実測図 ……………	171	第170図	東地区溝出土土器実測図1 ……………	234
第127図	井戸(SE01~04)実測図 ……………	173	第171図	東地区溝出土土器実測図2 ……………	235
第128図	SE06実測図 ……………	174	第172図	東地区溝出土土器実測図3 ……………	236
第129図	上層土坑実測図1 ……………	177	第173図	東地区不明遺構・ピット出土土器実測図 ……	237
第130図	上層土坑実測図2 ……………	178	第174図	川1出土土器実測図 ……………	238
第131図	上層土坑実測図3 ……………	179	第175図	A3区土器集中区出土土器実測図 ……………	239
第132図	上層土坑実測図4 ……………	180	第176図	A7区・A8区・D21区土器集中区出土土器実測図 ……………	240
第133図	上層土坑実測図5 ……………	181	第177図	A33区土器集中区出土土器実測図 ……………	241
第134図	畝状遺構実測図 ……………	182	第178図	A36区土器集中区出土土器実測図 ……………	242
第135図	SD42・SD43実測図 ……………	183	第179図	A34・A35区・A・B40区土器集中区出土土器実測図 ……………	243
第136図	SD42北・SD45・SD46・SD63実測図 ……	184	第180図	東地区Ⅶ層出土土器実測図1 ……………	244
第137図	甕形土器分類図 ……………	188	第181図	東地区Ⅶ層出土土器実測図2 ……………	245
第138図	壺形土器分類図 ……………	189	第182図	東地区Ⅷ層出土土器実測図1 ……………	246
第139図	高坏・器台形土器分類図 ……………	191	第183図	東地区Ⅷ層出土土器実測図2 ……………	247
第140図	鉢形土器分類図 ……………	193	第184図	東地区Ⅷ層出土土器実測図3 ……………	248
第141図	手焙形土器・脚部・蓋分類図 ……………	196	第185図	東地区Ⅷ層出土土器実測図4 ……………	249
第142図	SI01出土土器実測図1 ……………	198	第186図	東地区Ⅷ層出土土器実測図5 ……………	250
第143図	SI01出土土器実測図2 ……………	199	第187図	SI25出土土器実測図 ……………	252
第144図	SI01中央土坑出土土器実測図 ……………	200	第188図	SI26出土土器実測図1 ……………	253
第145図	SI02・03・05出土土器実測図 ……………	202	第189図	SI26出土土器実測図2 ……………	254
第146図	SI06・07出土土器実測図 ……………	204	第190図	SI35・36出土土器実測図 ……………	255
第147図	SI08出土土器実測図 ……………	205	第191図	SI24・27・28・32・33・34・37・38出土土器実測図 ……………	256
第148図	SI09・11出土土器実測図 ……………	206	第192図	中地区土坑出土土器実測図1 ……………	259
第149図	SI12・15出土土器実測図 ……………	207	第193図	中地区土坑出土土器実測図2 ……………	260
第150図	SI13・14出土土器実測図 ……………	208	第194図	中地区土坑出土土器実測図3 ……………	261
第151図	SI19出土土器実測図 ……………	210	第195図	中地区土坑出土土器実測図4 ……………	262
第152図	SI20・21出土土器実測図 ……………	211	第196図	中地区土坑出土土器実測図5 ……………	263
第153図	SI22・23出土土器実測図 ……………	212	第197図	中地区土坑出土土器実測図6 ……………	264
第154図	SE101・102出土土器実測図 ……………	213	第198図	中地区土坑出土土器実測図7 ……………	265
第155図	東地区土坑出土土器実測図1 ……………	214	第199図	中地区土坑出土土器実測図8 ……………	266
第156図	東地区土坑出土土器実測図2 ……………	216	第200図	中地区土坑出土土器実測図9 ……………	268
第157図	東地区土坑出土土器実測図3 ……………	219	第201図	SK5308出土土器実測図 ……………	269
第158図	東地区土坑出土土器実測図4 ……………	220	第202図	中地区土坑出土土器実測図10 ……………	270
第159図	SK5073出土土器実測図 ……………	221			
第160図	東地区土坑出土土器実測図5 ……………	222			

第203図	中地区土坑出土土器実測図11	271	第248図	中地区出土石器実測図1	359
第204図	中地区土坑出土土器実測図12	272	第249図	中地区出土石器実測図2	360
第205図	中地区土坑出土土器実測図13	274	第250図	中地区出土石器実測図3	361
第206図	中地区土坑出土土器実測図14	275	第251図	中地区出土石器実測図4	362
第207図	中地区土坑出土土器実測図15	277	第252図	西地区出土石器実測図1	364
第208図	中地区土坑出土土器実測図16	278	第253図	西地区出土石器実測図2	365
第209図	SD1051・1052出土土器実測図	279	第254図	西地区出土石器実測図3	366
第210図	中地区溝出土土器実測図1	280	第255図	東地区出土砥石実測図1	369
第211図	中地区溝出土土器実測図2	281	第256図	東地区出土砥石実測図2	370
第212図	中地区溝出土土器実測図3	282	第257図	東地区出土砥石実測図3	371
第213図	SD1101出土土器実測図	283	第258図	東地区出土砥石実測図4	372
第214図	中地区溝出土土器実測図4	284	第259図	中地区出土砥石実測図1	373
第215図	SD1129出土土器実測図	285	第260図	中地区出土砥石実測図2	374
第216図	中地区溝出土土器実測図5	286	第261図	西地区出土砥石実測図	375
第217図	中地区ピット出土土器実測図	287	第262図	原石～荒割段階未成品実測図	378
第218図	川4出土土器実測図1	288	第263図	荒割段階未成品実測図	380
第219図	川4出土土器実測図2	289	第264図	SI01出土角柱状未成品実測図	381
第220図	川4出土土器実測図3	290	第265図	SI11出土角柱状未成品実測図	382
第221図	川5出土土器実測図1	291	第266図	その他の住居出土角柱状未成品実測図	383
第222図	川5出土土器実測図2	292	第267図	その他の住居・遺構出土角柱状未成品実測図	384
第223図	川5出土土器実測図3	293	第268図	研磨未成品実測図	385
第224図	中地区土器集中区出土土器実測図	294	第269図	穿孔直前段階～完成品実測図	387
第225図	85・86区谷部出土土器実測図1	296	第270図	石製管玉実測図	388
第226図	85・86区谷部出土土器実測図2	297	第271図	勾玉・ガラス玉実測図	389
第227図	85・86区谷部出土土器実測図3	298	第272図	鉄製品実測図1	413
第228図	85・86区谷部出土土器実測図4	299	第273図	鉄製品実測図2	414
第229図	中地区包含層出土土器実測図1	300	第274図	鉄製品実測図3	415
第230図	中地区包含層出土土器実測図2	301	第275図	鉄製品実測図4	416
第231図	中地区包含層出土土器実測図3	302	第276図	木製品実測図1	428
第232図	中地区包含層出土土器実測図4	303	第277図	木製品実測図2	429
第233図	SI41・44・46・47・48出土土器実測図	306	第278図	木製品実測図3	430
第234図	SI39・40・42出土土器実測図	307	第279図	木製品実測図4	431
第235図	SI45・49出土土器実測図	308	第280図	網代実測図	432
第236図	西地区土坑出土土器実測図1	310	第281図	土師器・須恵器・石帯実測図	433
第237図	西地区土坑出土土器実測図2	311	第282図	中世の遺物実測図1	436
第238図	SK5450出土土器棺実測図	312	第283図	中世の遺物実測図2	437
第239図	SK5459出土土器棺実測図	313	第284図	中世の遺物実測図3	438
第240図	西地区溝出土土器実測図1	315	第285図	中世の遺物実測図4	440
第241図	西地区溝出土土器実測図2	316	第286図	中世の遺物実測図5	441
第242図	E144区土器集中区出土土器実測図	317	第287図	中世の遺物実測図6	442
第243図	西地区包含層出土土器実測図1	318	第288図	中世の遺物実測図7	443
第244図	西地区包含層出土土器実測図2	319	第289図	中世の砥石実測図	444
第245図	東地区出土石器実測図1	356	第290図	縄文土器実測図1	449
第246図	東地区出土石器実測図2	357	第291図	縄文土器実測図2	450
第247図	東地区出土石器実測図3	359	第292図	縄文土器実測図3	451



## 表 目 次

第1表	弥生～古墳前期 東地区出土土器観察表 .....	320
第2表	弥生～古墳前期 中地区出土土器観察表 .....	334
第3表	弥生～古墳前期 西地区出土土器観察表 .....	350
第4表	石鏃・石錐観察表 .....	363
第5表	磨製石斧観察表 .....	363
第6表	打製石斧観察表 .....	367
第7表	石杵・石棒・不明石器観察表 .....	367
第8表	弥生時代砥石観察表 .....	376
第9表	管玉角柱状未成品計測表 .....	390
第10表	管玉研磨未成品計測表 .....	406
第11表	管玉穿孔直前多角柱状未成品計測表 .....	406
第12表	管玉穿孔初期未成品計測表 .....	406
第13表	管玉穿孔中破損未成品計測表 .....	406
第14表	管玉未貫通未成品計測表 .....	407
第15表	管玉未仕上げ未成品計測表 .....	407
第16表	管玉完成品計測表 .....	407
第17表	勾玉・勾玉未成品計測表 .....	410
第18表	ガラス玉計測表 .....	410
第19表	鉄製品一覧表 .....	417
第20表	鉄製錐状工具計測表 .....	421
第21表	鉄製棒状工具（小）計測表 .....	423
第22表	鉄製棒状工具（大）計測表 .....	426
第23表	鉄製タガネ状工具計測表 .....	426
第24表	弥生時代木製品観察表 .....	432
第25表	中世砥石観察表 .....	444
第26表	古墳時代土師器観察表 .....	445
第27表	平安時代須恵器観察表 .....	445
第28表	石帯観察表 .....	445
第29表	中世土器観察表 .....	445
第30表	中世土錘観察表 .....	447
第31表	中世木製品観察表 .....	447
第32表	縄文土器一覧表 .....	454

## 第1章 調査に至る経緯および経過

### 第1節 調査に至る経緯

林・藤島遺跡は、林城や超勝寺を中心に中世に発達した地で、平泉寺の荘園、藤島荘に比定される地域である。また、林町西側の水田で1958年（昭和35年12月）に明治大学により実施された調査の結果、弥生時代～古墳時代前期の遺物が多量に出土し、林遺跡と名付けられこの時期の福井県を代表する集落遺跡として知られるようになった。その後、明治大学の調査地点の北側で、関西大学により発掘調査が行われ、縄文時代晩期の遺物群も検出されている。過去2回の発掘調査では遺構は検出されず、遺跡の性格までは把握できるには至らなかった。1988年（昭和63年）に福井県教育委員会が実施した県内詳細遺跡分布調査により、遺跡の範囲は東西約1.5km、南北約2kmに広がることが確認され、平成4年度刊行「福井県遺跡地図」には林・藤島遺跡として登録された。

周辺は、福井市東部に広がる静かな田園地帯であるが、1980年（昭和55年）に松岡町五領に福井医科大学が、1992年（平成4年）に福井県立大学が開学し、松岡町側の道路が整備されたことに伴って勝山方面および丸岡方面のバイパスとしての利用が増加し、特に朝のラッシュ時の北野上地区周辺の混雑が激しくなった。そのため、北野上および泉田集落内を通過していた県道大畑松岡線の北野上集落内の道路幅拡大と共に、福松大橋から林町に至るバイパス工事が計画された。

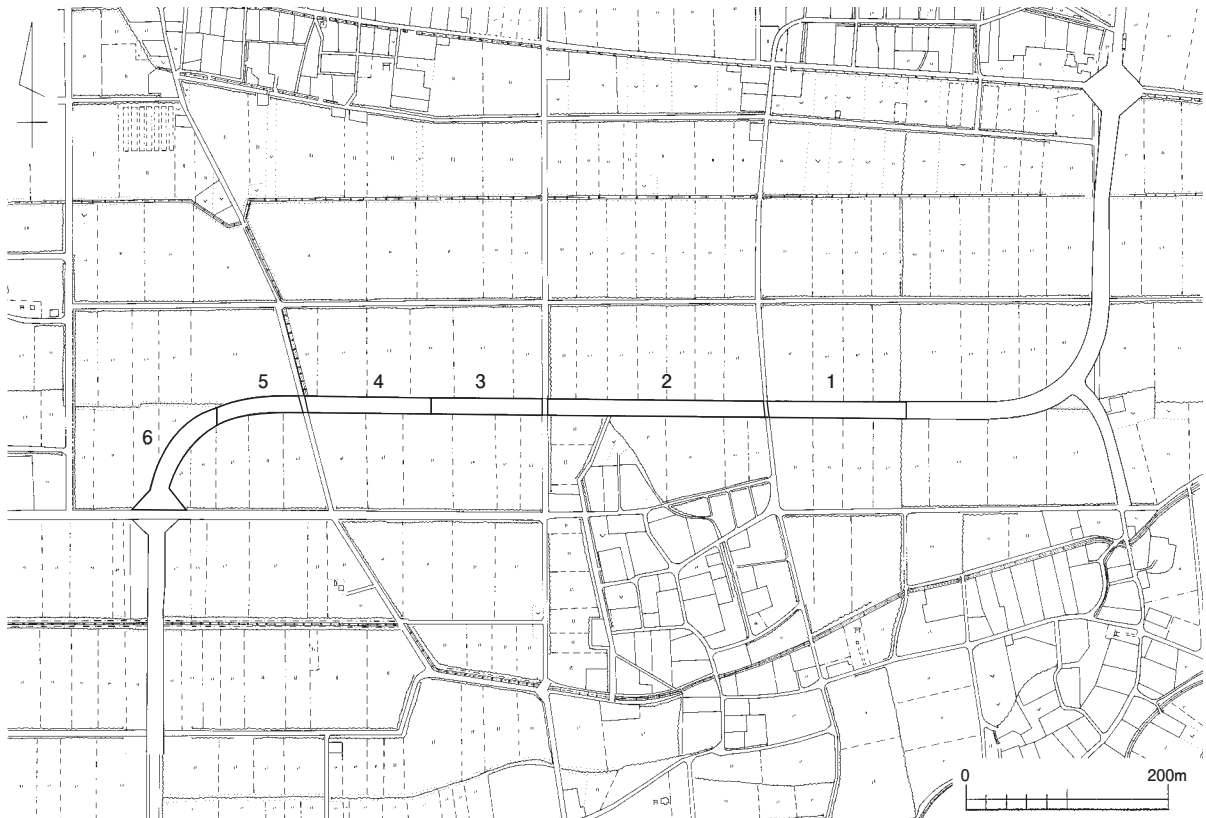
平成5年4月19日に、福井土木事務所と文化課で協議が行われ、予定地がすべて周知の埋蔵文化財包蔵地「林・藤島遺跡」に掛かることから、全域に渡って試掘調査を実施する旨確認がなされた。用地買収が終了した北野上から中ノ郷地区について、平成5年9月24日付け福土第2427号で埋蔵文化財調査センターへ試掘依頼が提出され、平成5年10月12日に試掘調査を実施した結果、この範囲での埋蔵文化財の存在は確認されなかった。引き続き、用地買収が終了した泉田地区について、平成6年10月12日付け福土第2424号で提出された依頼に基づいて、平成6年12月12・13日に試掘調査を実施した。その結果、全域に渡って、弥生時代と中世の遺構面が良好な状態で遺されていることが判明し、工事に先立って本発掘調査が必要との回答を平成6年12月14日付け埋文第241号で福井土木事務所に提出した。

### 第2節 調査の経過

#### 1. 調査の経過

道路幅14mに対し、掘削幅を両側に各1m想定し、16m幅、延長約815mを調査範囲として実施した。予定地中央には農業用排水路があり、周辺の水田の排水がこの水路に集まる形になっていたため、水路の切り回しを行う必要があった。協議の結果、道路南側溝を先行して完成させ、南の水田の排水を受け、北側の排水は、仮設U字溝で受け、下流で中央水路に合流させる方法で対処することになった。そのため、南側を先行して調査する必要があったが、8m幅で調査した場合、下層の弥生時代面が水路の底部とほぼ同じ高さになるため、水路の切り替えまで調査の実施はできないことから、上層の中世面は16m幅で調査を実施し、下層は水路掘削幅3mのみを先行して調査して、残りの13m分の包含層調査すると平行して水路を敷設し、水路を切り替えた後に全面調査を行う方法で進めることとなった。

調査は、東側から順次進め、南北に横断する道路により区画された4ブロック単位での完了および引き渡しを行い、道路建設と平行して調査を進める予定で開始した。工事の関係で、引き渡し時期は10月



第1図 道路計画路線図と調査ブロック図（縮尺 1/7,500）

頃とされ、それをメドに調査を実施し、順次次の調査区へ着手する形で計画を進めることとなった。

ところが、平成9年度に上層面と下層面間の黄褐色砂質土層を除去している際、下層包含層の上面で畦状の高まりと、直径10cm程の円形の落ち込みを多数検出し、精査した結果、水田の畦畔と馬の蹄跡であることが判明した。その結果、当初上下2面と考えていた遺構面は、合計3面存在することになった。それにより、当初の計画通り調査を進めることが困難になったため、福井土木事務所と協議した結果、3ブロック目と4ブロック目は半分に割り、合計6ブロックに分けて調査を実施することになり、第1ブロックは平成8年度、第2ブロックは平成9～10年度上期、第3・4ブロックは平成10年下期～12年度、第5・第6ブロックは平成13年度に実施する変更計画を土木に提示した。

しかし、第3ブロック以西は、それまでの排土置き場が使えず、事務所プレハブの位置も遠くなるため、新たにそれらの設置準備が必要で、第2ブロック終了後直ちに第3ブロックへ移ることができず、結局平成10年度は、第2ブロックの調査を前半で終了後は、一旦現場作業を中断せざるをえず、再開は平成11年3月となった。

また、調査を進める中で第3・4ブロックは、中世の包含層が良好な状態で残っていた他、弥生時代面では遺物量が多い上遺構密度も高く、さらに中央付近と西端部に遺物を多く含む当時の川跡が存在することが判明した。特に中央付近の川（川4）は幅20m深さ1mに及び、当初予定での調査完了は困難となったため、再度協議行い期間を平成13年度上半期まで延長することで合意した。結果、第3・4ブロックは平成11年度～平成13年度、第5ブロックは平成14年度、第6ブロックは平成15年度に実施することになった。

ところが、この年に林・藤島遺跡北野上地区で県道舟橋松岡線改良工事に伴う発掘調査を同時並行で

実施する必要性が急浮上し、8月後半から富山が北野上地区と掛け持ちすることになった上、4ブロックの弥生時代の遺構遺物は予想をさらに上回り、上半期での引き渡しは困難となったため、福井土木と協議した結果、4ブロックの東半分を先行して引き渡し、水路分の工事を着手し、同年12月までに残り西半分を引き渡すことで工事との調整を付けることで合意した。

平成13年度の遅れのため、第5ブロックは平成14年度3月から着手し同年10月まで実施した。なお、富山は10月22日～12月まで、福井市二上町糞置遺跡調査のため現場を離れた。第6ブロックは、平成15年4月から同年12月まで調査を実施し、すべての調査地区をようやく終了した。

## 2. 日誌抄

平成8年

- 5月7日 調査区東側より現地調査開始。
- 5月28日 上層遺構面ラジコンヘリによる空中写真測量実施。
- 5月30日 南側溝分下層包含層調査着手。
- 6月7日 D10区で緑色凝灰岩の集積検出。
- 9月3日 南側溝分下層面のクレーンによる写真測量実施。県道東側。
- 9月4日 残り下層面（A～C区）の包含層調査着手。
- 9月6日 県道西側の写真測量実施。高所作業車使用。
- 9月26日 A・B3～4区で礫群列検出。
- 10月15日 礫群列付近の空中写真測量実施。
- 10月23日 寒川旭氏来跡。礫群列が墳礫である可能性を指摘される。
- 12月25日 年内の調査終了。冬季休止期間に入る。

平成9年

- 3月3日 調査再開。
- 5月1日 クレーンによる空中写真測量実施。
- 5月16日 図面作成作業終了。A～B27区付近 層から縄文土器出土。
- 5月19日 A～B区の層縄文調査。谷地形を検出。遺物はそこへの流れ込みと判明。
- 6月7日 県立盲学校生徒、見学。
- 7月14日 31～72区上層南半部調査開始。6箇所でもトレンチ調査実施。
- 8月21日 31～72区上層南半部、ラジコンヘリによる写真測量実施。
- 8月22日 31～72区上層北半部、表土剥ぎ開始。
- 8月25日 31～72区下層南側溝部下層調査開始。
- 9月5日 C・D74・75区南仮排水路部写真測量実施。
- 9月9日 49区付近で、水田の畦畔と考えられる部分検出。
- 9月10日 水田遺構検出作業開始。馬の蹄跡多数検出。
- 9月12日 県道路建設課、福井土木事務所、文化課で調査期間延長について協議。
- 9月24日 31～72区上層北半部にも調査着手。
- 10月8日 49～72区水田面空中写真測量実施。
- 10月22日 31～72区南側溝部下層空中写真測量実施。
- 10月29日 31～72区北半部上層空中写真測量実施。
- 10月30日 31～72区A～C区水田面調査開始。

- 12月15日 A74・75区水田面調査。  
12月22日 年内の調査終了。冬季休止期間に入る。

平成10年

- 3月2日 調査再開。C31～33区水田遺構調査。  
3月31日 63区川2の調査着手。  
5月7日 31～72区水田面空中写真測量実施。全景写真撮影。  
5月19日 NHK地元番組の取材。

平成11年

- 3月1日 調査再開。76～82区南半部上層包含層調査。  
3月12日 76～97区南半部空中写真測量実施。  
4月6日 76～97区南側溝部水田面空中写真測量実施。  
4月9日 76～97区南側溝部下層調査着手。  
5月14日 76～97区南側溝部下層空中写真測量実施。  
5月19日 76～97区水田面調査着手。  
6月4日 98～121区南半部上層調査着手。  
8月20日 76～97区水田面および98～121区上層面空中写真測量実施。  
8月25日 76～97区下層調査着手。  
10月28日 83～86区溝列空中写真測量実施。

平成12年

- 1月6日 76～97区下層空中写真測量実施。  
3月1日 調査再開。98～121区南側溝部調査着手。  
7月18日 98～121区南側溝部空中写真測量実施。98～121北半部上層調査着手。  
8月7日 98～121北半部上層空中写真測量実施。  
10月28日 98～121水田面空中写真測量実施。

平成13年

- 8月6日 北野上地区表土剥ぎ着手。以後12月18日まで併行して調査実施。  
11月12日 98～106区下層空中写真測量実施。  
12月13日 107～121区下層空中写真測量実施。

平成14年

- 2月26日 123～142区上層調査着手。  
5月9日 123～142区水田面調査着手。  
6月20日 123～142区水田面空中写真測量実施。  
10月11日 123～142区下層空中写真測量実施。

平成15年

- 5月18日 現地説明会実施。  
6月4日 143～154区水田面空中写真測量実施。  
10月29日 143～154区下層空中写真測量実施。  
11月14日 作業員作業終了。  
12月19日 現場撤収。終了。

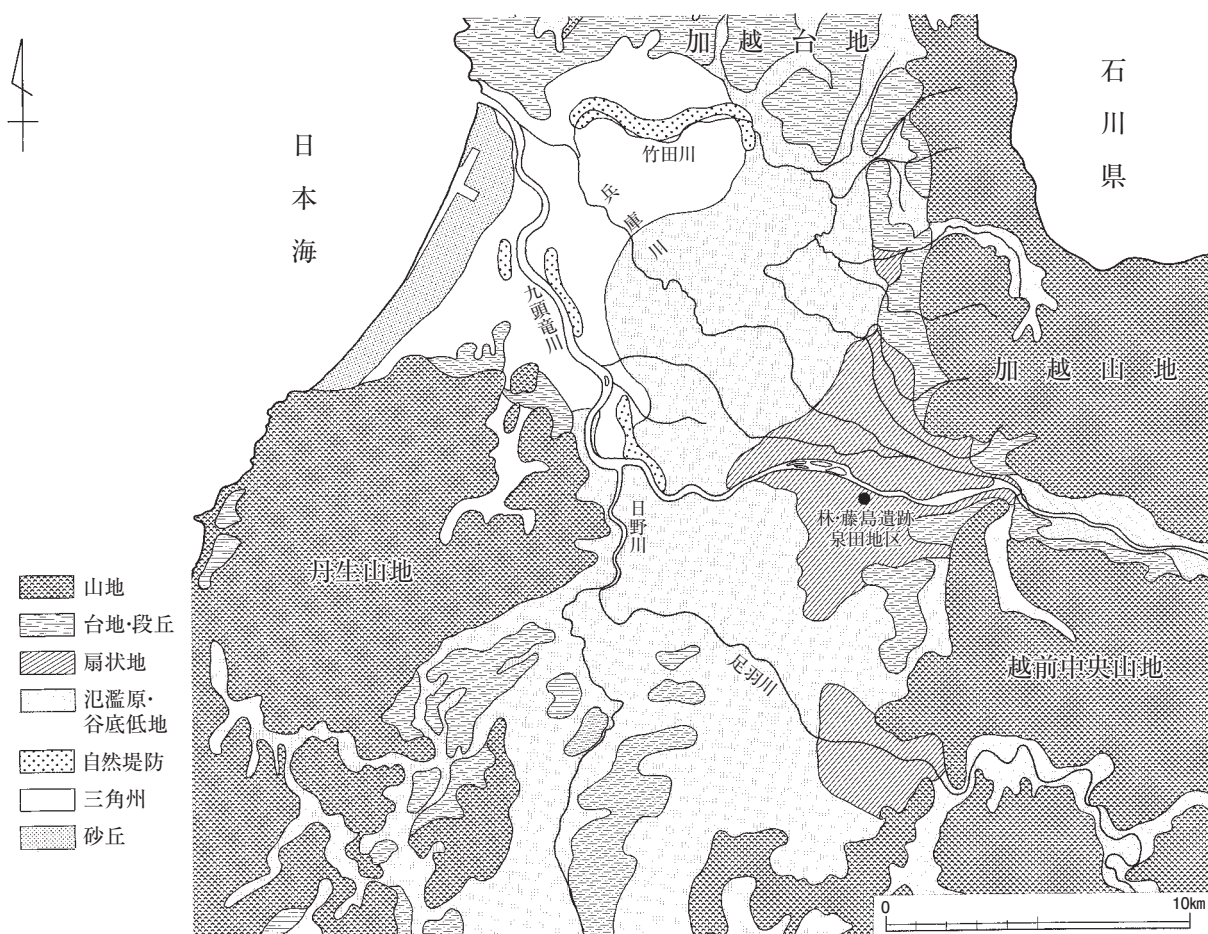


## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

福井県は敦賀市東方に位置する木の芽山嶺を境にして、嶺北地方と嶺南地方に分けられる。嶺北地方は、九頭竜川・日野川・足羽川という大河川で広大な沖積平野を形成しているのに対し、嶺南地方は海と山地に挟まれた狭小な平地や小河川の河岸段丘から構成され、地形的な差異が顕著である。

林・藤島遺跡のある嶺北地方は、加賀越前・越美・丹生の各山地に三方を囲まれて中央を越前中央山地が南北に走る。丹生山地と加賀越前山地・越前中央山地に挟まれた形で形成されているのが福井平野で、南北に長い沈降盆地である。この平野を貫くのが県内最大の河川、九頭竜川である。九頭竜川は、白山山系の南側の岐阜県境付近を源流とし、山間部を縫うようにして西に流れる。大野盆地に出た後は一旦北へ流れを変え、勝山を経て再び西に向かう。谷に河岸段丘を発達させ、永平寺町鳴鹿付近から扇状地を発達させながら福井平野へ出る。福井市高屋町付近で冠山を源流とする日野川と合流後北へ流れを変え、三国町で加越台地にぶつかって日本海へ出る。九頭竜川が福井平野に作り出した扇状地は、比高差が少なく、農業基盤整備が大規模に済んでいる関係で面影は薄れてはいるものの、県内最大の扇状地となっている。扇頂部を永平寺町付近に持ち、扇端部は現国道8号線付近まで達する。現集落は、扇状地に形成された自然堤防上に点在している。九頭竜川は上流の九頭竜ダムが完成するまでは度々氾



第2図 周辺の地形 (S=1/25,000)

濫し、大きな被害をもたらすと同時に大量の土砂を上流から運んだ。この土砂は、河川を埋め新たな地形を生み出し、結果的に現在のなだらかな地形を形成している。泉田地区の調査で見られた中世遺構面と古墳時代後期遺構面との間の厚い洪水砂（最大約50cm）は、それを顕著に物語っている。一方、九頭竜川から離れる南の原目山裾付近は、荒川による扇状地と重なり、上層の堆積物が薄く遺跡も拡がらない。川筋は、堤防が整備されるまでは必ずしも一定せず、扇頂部付近からいくつかの支流に分かれていたようである。泉田地区では、調査区を南北横断する弥生時代の河川が3本、古代の河川が1本、近現代の河川1本検出されている。扇状地を流れる川は通常放射状に広がるが、この扇状地では比較的蛇行が大きく、蛇行が作り出した微高地に弥生時代の集落は立地していた。北野上地区においても調査区東側で近年まで流れていた川跡が確認され、この川により弥生時代の集落は削られていたが、古代・中世はこの川を意識していることから、このような川に接した場所に生活基盤が置かれていたことがわかる。また、近年まで湧水地が扇状地中程多く存在し、現地表下約2mにある基盤の礫層上部まで達すると出水するほど水位は高く、水が豊富であった。現在は上水道の汲み上げポンプ場が付近に建設されたため水位が低くなり、現在では湧水地の大半が姿を消している。水はけが良く、水源に近接することから現在でも付近一帯の水田は良田として知られ、古くから生産力が高い地域であったことが地形からも裏付けされる。

北野上地区は林・藤島遺跡範囲の北東端に位置し、標高は約19mを測る。現九頭竜川から南へ僅か約150mしか離れていない場所で、氾濫の影響を直に受けた場所といえる。しかし、上層では砂の堆積が多く見られるが、下層では黒褐色粘質土が安定して堆積していることから、弥生時代～古墳時代では、川の氾濫の影響が少なかったと考えられ、九頭竜川本流は現在より少し北側を流れていた可能性が高い。

## 第2節 歴史的環境

**先土器時代** 九頭竜川は水運交通での役割は大きく、歴史的にも大きな影響を持っていた。先土器時代の遺跡も大半がこの沿岸にある。上流の勝山市猪口南幅遺跡は河岸段丘上にあり、古代の遺跡の下層から安山岩製のナイフ形石器、珪質岩製削器1点、彫器1点など製品とそれに近い石器のみが出土している。河口の海岸段丘上には三国町西下向遺跡があり、安山岩製の横長剥片製作に係わる遺物が集中的に出土している。近辺では、永平寺町高橋で安山岩製のナイフ形石器が1点表採されている他、吉野塚大明地遺跡では、珪質岩製のナイフ型石器が1点出土している。

**縄文時代** 縄文時代草創期の遺物としては、永平寺町鳴鹿山鹿遺跡でデポされた状態で発見された有茎尖頭器が有名である。勝山市平泉寺町で局部磨製石斧と槍先形尖頭器が離れた地点で各1点出土している。また、永平寺町諏訪間興行寺遺跡で有茎尖頭器や安山岩剥片、縄文土器が出土している。吉野塚桑下遺跡では、近接した場所から有茎尖頭器2点出土している。

後期では、永平寺町鳴鹿手島遺跡がある。扇状地の頂部に位置する九頭竜川右岸段丘上に立地し、後期前半の集落の一部が検出されている。

晩期では、永平寺町志比谷にある成仏・木原町遺跡で、晩期の墓域を主体とした集落遺跡が検出されている。土器棺が38基、石組墓1基、配石9基、土坑109基、住居4棟などを検出し、永平寺川によって形成された舌状の微高地が志比谷内に埋もれており、その上に集落が営まれていたことを示す資料として貴重なものといえる。また、東北地方日本海側で多く見られ、上越から信州、関東にその分布域がみられる石組墓が福井で見つかったことは、その文化の流れが日本海伝いに南下していたことを示すも

のとして注目に値する。永平寺町轟（どめき）の轟遺跡は、本格的な調査はされていないが、表採資料などから判断して良好な後期から晩期の集落遺跡であるといえる。林・藤島遺跡の西端に位置する旧林遺跡では、表採によって多くの石鏃と併に安山岩やチャートのフレイクが多量に採集されている。その量から考えて、石器製作遺跡である可能性が高い。

**弥生時代** 林・藤島遺跡の上流約1 Kmに環濠集落と考えられる室遺跡がある。V字状の濠の西側を中心に竪穴住居、掘立柱建物群が検出されている。遺跡の南に位置する原目山には、64基で構成される弥生時代後期から古墳時代前期の墳墓群があり。昭和41年(1966年)には明治大学と福井考古学研究会が、昭和45年(1970年)には福井市教育委員会、昭和46年(1971年)には福井県教育委員会によってそれぞれ調査が実施され、昭和41年の調査では5基のうちI号墓から323点の管玉がまとまって出土したことで注目された。また、下流側約2 kmには高柳遺跡は、四隅突出型墓1基を含む方形周溝墓群が、松岡町松岡古墳群の西裾に当たる南春日山墳墓群からは同時期の四隅突出墓1基、方形周溝墓3基が検出されている。これらの遺跡は、林・藤島遺跡より後出する時期に位置付けられ、同時期のものではないものの、地理的にも時期的にも何らかの関係があった可能性が高いと考えられる。

**古墳時代** 九頭竜川が平野に開くこの場所は、古墳時代前期に大首長墓が造られたことでも重要である。松岡古墳群の手繰ヶ城山古墳は全長128mの前方後円墳で、4世紀末～5世紀初頭に造営されたと考えられている。対岸の六呂瀬山古墳群には全長140mの前方後円墳があり、埴輪列と葺石が確認されている。これらの山頂部は、福井平野から見通せる場所にあり、首長墓の立地としての条件が整っている。これらと直接関係がある集落がどこに当たるのかは特定できないが、林・藤島遺跡を初め、九頭竜川沿いの扇状地、自然堤防上には古墳時代前期の集落や遺物散布地が広く分布しており、周辺にかなりの人口が集中していたことは間違いない。後期で特筆すべき遺跡が現状では発見されていないものの、泉田地区で検出された水田跡が示すようにこの付近一帯が水田地帯で、大きな生産基盤があったことは明らかで、近辺に集落跡が存在している可能性は高いが、その位置の特定は出来ていない。

**古代** 泉田地区周辺の扇状地上では、遺物の集中する散布地や集落は希薄であるが、南西側の松岡吉野地区には古代の集落が発見されている。吉野堺大明地遺跡は、中部縦貫自動車道関連の調査で、掘立柱建物、竪穴住居、井戸の他、土馬が出土した。また、さらに吉野谷の奥に入った猪谷田畑遺跡や上吉野法善田遺跡でもまとまった古代の集落が検出されており、後者では墨書土器も多数出土している。2つの遺跡の中間に位置する湯谷砂田遺跡でも二次的に堆積した土層中から多量の須恵器や土師器が出土しており、狭いながらも吉野谷に多くの集落が展開していたことが分かりつつある。

泉田地区の土層を見ると、この時期は洪水砂がかなり堆積しており、水害が多発していた可能性が高い。集落は川沿いには展開できず、水害などの影響を受けにくい山側に集中していたことを物語っていると言えそうである。

**中世** 中世に入ると、再び林・藤島遺跡全体に集落が広がる。付近一帯は、藤島荘としては平泉寺の荘園として知られ、林城や藤島城といった館を中心に発展した。中世の道路として頻繁に利用された朝倉街道もここを南北に貫き、北野上地区には渡しが設けられていた。





第3図 周辺の主要遺跡 (S=1/60,000)

1. 林・藤島遺跡 (縄文～古墳、平安、中世)、2. 高柳遺跡 (縄文～古墳)、3. 藤島城跡 (館跡、中世)、
- 4 林城跡 (館跡、中世)、5. 大和田遺跡 (散布地)、6. 室遺跡 (集落、弥生)、7. 吉野堺桑下遺跡 (集落、縄文・古代)、8. 吉野堺大明地遺跡 (集落、旧石器・縄文・古代)、9. 原目山墳墓群 (墳墓・古墳、弥生・古墳)、
10. 松岡古墳群 (古墳・墳墓、弥生・古墳) 11. 葵遺跡 (集落、弥生)、12. 諏訪問興行寺遺跡 (寺跡、中世)、
13. 鳴鹿手島遺跡 (集落、縄文)、14. 東古市縄手遺跡 (集落、縄文・弥生・古代)、15. 袖高林遺跡 (墳墓・古墳、弥生・古墳)、16. 猪谷田畑遺跡 (集落、古代)、17. 高柳下安田遺跡 (集落、弥生)、18. 上安田向田遺跡 (集落、弥生・古墳)、19. 河合寄安遺跡 (集落、古墳)、20. 諏訪問窯跡群 (窯跡、古墳)、21. 成仏木原町遺跡 (集落、縄文)、22. 京善藤谷口遺跡 (集落、古代)、23. 六呂瀬山古墳群 (古墳、古墳)、24. 重立山古墳群 (古墳、古墳)、
25. 坂下古墳群 (古墳、古墳)、26. 石盛遺跡 (散布地、古代)、27. 開発遺跡 (散布地、弥生～中世)、28. 丸山古墳 (古墳、古墳)、29. 丸岡古墳群 (古墳、古墳)、30. 泰遠寺山古墳 (古墳、古墳)、31. 稲荷山古墳 (古墳、古墳)、32. 湯谷遺跡 (散布、古代)

## 第3章 遺跡の概要

### 第1節 遺跡の概要

本遺跡は、下層から縄文時代晩期、弥生時代後期・古墳時代前期、古墳時代、中世（主として鎌倉時代13世紀）の複合遺跡である。以下、各時期別にその概要を述べる。

#### 1 縄文時代

土器棺が2基と打製石斧が埋納された小ピットの他は、遺構やそれに伴うような明確なもの無く、部分的な遺物の塊として出土した場合が大半である。弥生時代の遺構確認面の直上や一部その中に含まれていた。分布状況としては、1ブロックの西側、2ブロックの中間、3ブロックの中央付近、6ブロックにやや多く見られ、6ブロックで土器棺が出土している。1ブロックでは、遺構確認面（X層）内から出土するものが多く見られたが、遺構等の発見には至らなかった。3ブロックは、谷状の落ち込み内下層に、石器等と共に、土器が比較的まとまって出土している。

#### 2 弥生時代

この時期は本遺跡の中心を占めており、遺構の大半はこの時期の所産である。遺構の分布域と特徴から、3地区に分けられ、それぞれ東地区、中地区、西地区とした。これらは、当時の川によって区切られ、川が作った南北に延びると考えられる微高地を利用して営まれていた。

東地区は、1・2ブロックにはほぼ一致する東端から73区付近の市道まで、中地区は3・4ブロックにはほぼ一致する市道から122区付近の市道まで、西地区は5・6ブロックにはほぼ一致する市道から西端までの地区である。

東地区 東地区は東端に弥生時代の川（川1）が入り、西に古代の川（川2）と現代の川（川3）に挟まれた地区である。川3は現代（基盤整備前まで）の川であるが、遺物等から近世まで遡ることは確実で、さらに古くからある可能性もある。集落はこの川に向かって徐々に希薄となっていて、川3から市道付近は礫層が高く盛り上がっていて、遺構はほとんどなく、遺物量も極めて少ない。このことから、川3付近は集落の境界として、何らかの自然的制約があったと考えられる。集落の特徴としても強い地区である。特に1ブロック地区では、玉作り関連遺物と鉄製品がまとまって出土した。玉作関連遺物は、東地区に広く見られたが、1ブロックに集中しており、大半がこの地区から出土している。鉄製品も同様の分布域を示しており、この付近が工房として利用されていたことを如実に物語る。鉄製品の大半は、玉作工具と考えられる、穿孔具や剥離調整用棒状工具と考えられる、微細な棒状製品である。しかし、鎌や刀子、袋状鉄斧、ヤリガンナ、鎌など、その他の道具や工具も多く見られ、同時期の遺跡の中、少なくとも本遺跡の他の地区と比較しても、突出した在り方を見せている。

中地区 中地区は、3ブロックのやや西よりの88～90区付近にある川（川4）と4ブロックの西端の川（川5）に挟まれた集落域と川4の東側と市道との間の地区から構成される。東側地区では、市道付近の礫層の盛り上がり部分と、川4の東岸の高まりの間に緩やかな谷状地形があり、その中に完形に近いものも含む多量の遺物がまとまって出土した。また、川岸の高まりでは、弥生時代中期と考えられる住居跡の一部も存在しており、この東部分にも別な集落が存在する可能性も否定できないが、今回の調査区内では明確にしえなかった。

川に挟まれた集落域は、3地区の中で最も遺構密度が高く、遺物量も多い。平地式住居が多い傾向が

あり、特にSI25は、周辺の溝状土坑の外周で見ると、直径は25m近くにもなり、遺物も土坑を中心に多量に出土し、中心的な位置を占める存在となっている。

玉製作関連遺物は、住居跡周辺で少量出土するものの、特定の場所に集中するような傾向はあまり認められない。しかし、SI25の東外周土坑の外側で、荒割された緑色凝灰岩未製品が集積された状態で出土している。

西に位置する川5は、比較的木製品が多く含まれていたが、剣形木製品など実用品よりは祭祀具的な物が多い傾向がある。また、川の肩部では、小型台付き壺が完形で川に向かって倒れ込んだ形で出土し、その内部からは、墨を作る際に使用するような純粋な煤がほぼ当時のまま遺されていた。口縁部には2個1対の穿孔があり、木製の蓋で閉じられていた可能性が高い。

西地区 西地区は、川5から西の終端までであるが、川に近い部分のブロック5付近と、ブロック6の南側部分では明らかな違いがある。前者は、他の地区と同様に弥生時代後期の集落であり、その南を東西に流れる溝(SD1134)で区切られる。集落の南端と考えられ、北側にその中心があると推定できる。一方ブロック6の方は、南端に大型で焼失痕を有する平地式住居SI45が位置し、柱の無い隅丸長方形の竪穴住居が2棟(SI46・47)、隅丸方形の竪穴住居(SI48)1棟の他、SI45の下層から小型の平地式住居(SI49)を検出した。出土した遺物から、中期後半～後期前半と考えられ、他の地区よりも若干古い時期の集落がこの地区に存在する可能性が高い。

玉作関連遺物は、住居跡周辺で少量出土しているに過ぎず、極めて希薄な状況で、それが中心的な存在でないことを示していた。

### 3 古墳時代

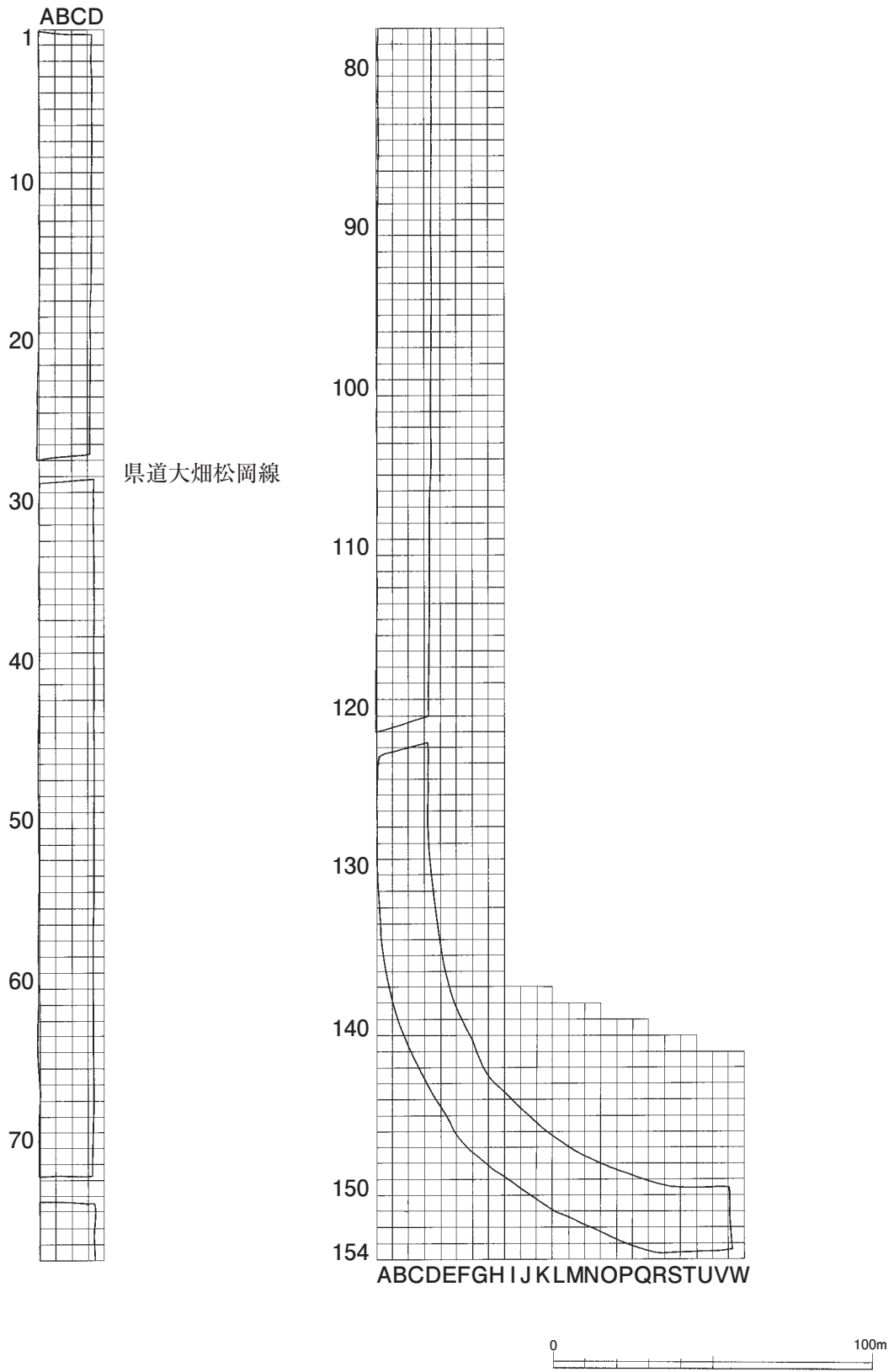
前期の遺構・遺物は、東地区に偏っている。竪穴住居が1棟と遺物が多量に入った土坑2基が目立つ以外は、明確な形で集落の特徴を捉えられる状況にはなかった

中期、後期に関しては、遺物はほとんど出土せず、集落が存在していた可能性はほとんどない。しかしながら、6世紀代後半の遺物が若干出土する層から水田跡がほぼ全域に渡って検出され、同時期是水田として一帯が利用されていたことが判明した。時期の確定には、遺物量があまりにも少ないため断定はできないが、弥生～古墳前期の包含層の上面であること、その上の洪水砂(第V層)上面で古代の須恵器が出土することなどから考えて、6～7世紀頃の水田と考えた。水田の表面には、2・3ブロックで馬の蹄跡、6ブロックで人間の足跡を多数検出した。水田を洪水砂が覆ったおかげで、良好な形で検出することができた。

また、中地区川4東側谷部分の水田面直下層で、3条の溝が谷に平行して検出された。遺物は出土していないが、層位から古墳時代前期～中期頃と考えられ、埋土の大半が砂である点などから、排水ではなく灌漑用の水路であった可能性が高い。

### 4 中世

遺構は全体に薄く広がっている。遺構が多いのは1・2ブロックで、掘立柱建物6棟、井戸4基、畝状遺構1ヶ所など、主な遺構が集中する。遺物は4ブロックで多く、カワラケを中心に包含層中にやや多くの遺物が含まれていた。また、同ブロックでは、縦板横組みで内部に砂利を詰め、底に曲げ物を持つ井戸が1基検出されている。他の遺構は、大半が溝であり、その多くは耕作に伴うと考えられる浅いものであり、農村集落の一部であると考えられる。



第4図 グリッド配置図 (S=1/2,000)



## 第2節 グリッド設定と標準土層

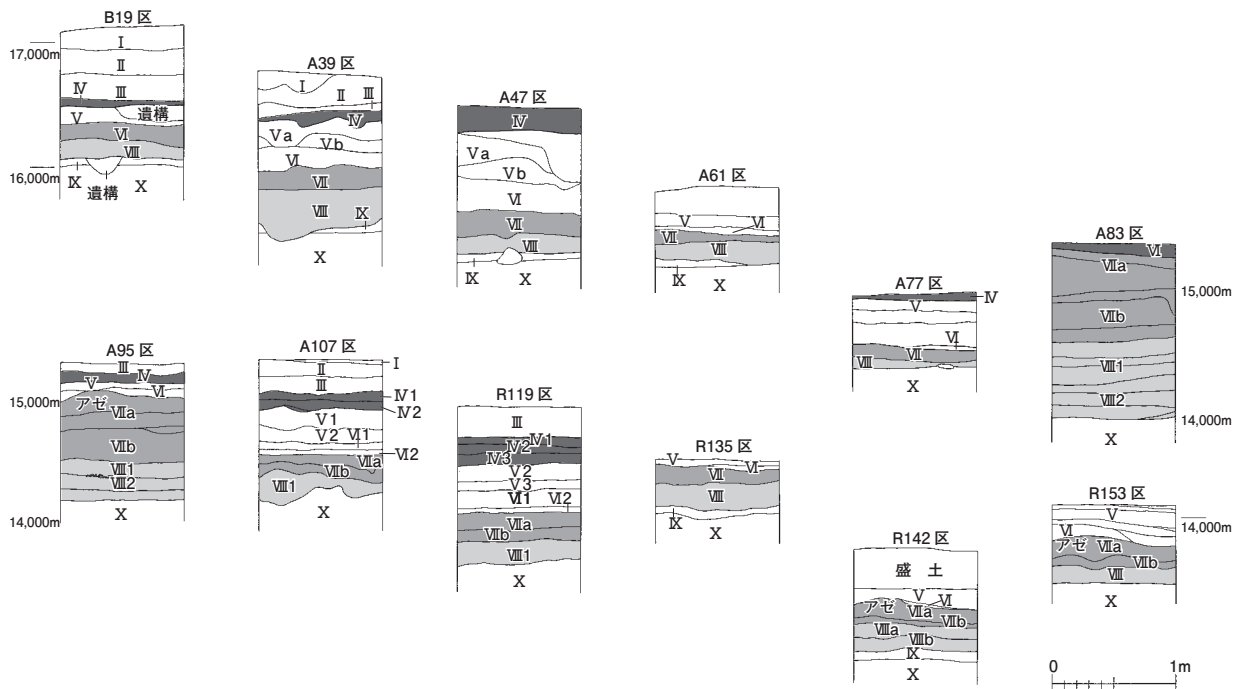
### 1 グリッド設定 (第4図)

道路予定地内の北側を基準に、平行する形で5mメッシュにグリッドを設定し、北からアルファベットのA~W区、東側から1~154区という形で地区名を表わした。北端の杭は調査区の境に当たるため、調査の中では、内側に1m入ったラインで杭を打って調査を行った。よって、図面等でAラインの杭が出ている場合は、この杭列を示している。

### 2 標準土層 (第5図)

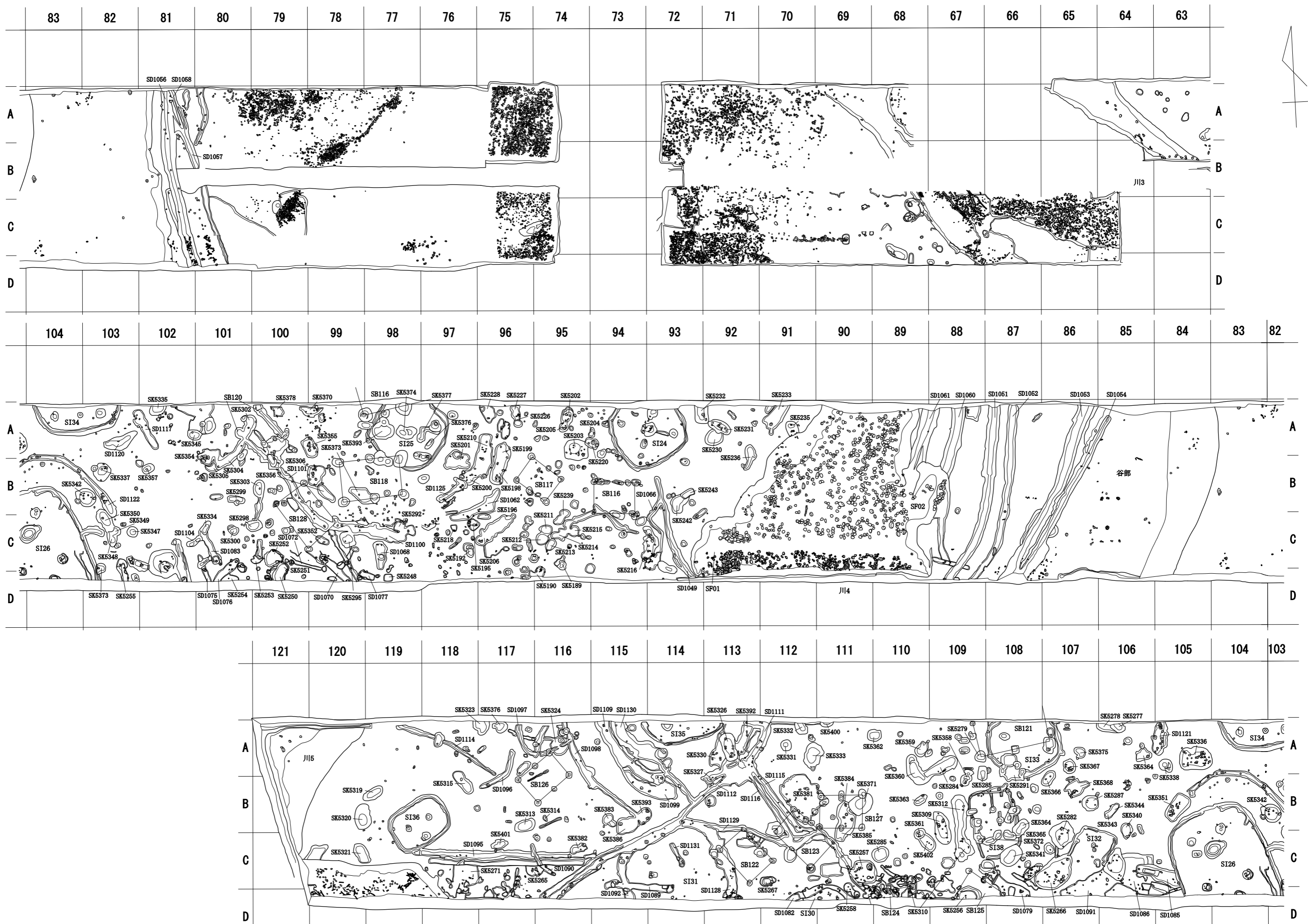
調査区域の延長が約860mにも及ぶため、各地区で必ずしも土層が一致する訳ではないが、比較的対応関係が明確である。表土は除去後で、その直下の層から層位である。

I・II層は東側の一部のみでしか見られず、大半が削平されている。II層は近世の遺構面と考えられ、やや黄褐色の砂質土で、調査区外の表土直下面では遺構と思われるシミを確認している。III・IV層は中世の包含層で、下層ほど色調が暗くなる。V層は黄褐色砂質で、洪水砂の堆積層である。遺物はほとんど含まない。一部を除き20~60cmの堆積が認められ、上面は中世の遺構確認面である。VI層は、シルト質の灰黄色の土に黒色土が微量混入する水田面を覆う土で、当時の耕作土の名残と考えられ、遺物はほとんど含まない。VII層は黒色土で、上面が水田面である。遺物は、土師器や弥生土器の小片が含まれているが量は少ない。古墳時代前期の包含層と捉えることが可能だが、この時期の遺構が少ないことあり、包含層を形成するのには至っていない。VIII層は、弥生時代の包含層で、黒~暗褐色を呈し、VII層よりはむしろやや明るい。さらに、上層はやや暗いVIII1層、下層はやや明るいVIII2層に二分でき、遺物は後者が多く、破片も大きい。IX層は鈍い黄褐色土で、地山である黄褐色砂質土(X層)への漸移層的な色彩が強い。遺物は少ないが、縄文時代の遺物はこの層に含まれる場合が多い。弥生時代の遺構確認面はIX~X層の上面であるが、本来の生活面はVIII層中にあるものと考えられる。



第5図 標準土層図 (縮尺1/60)

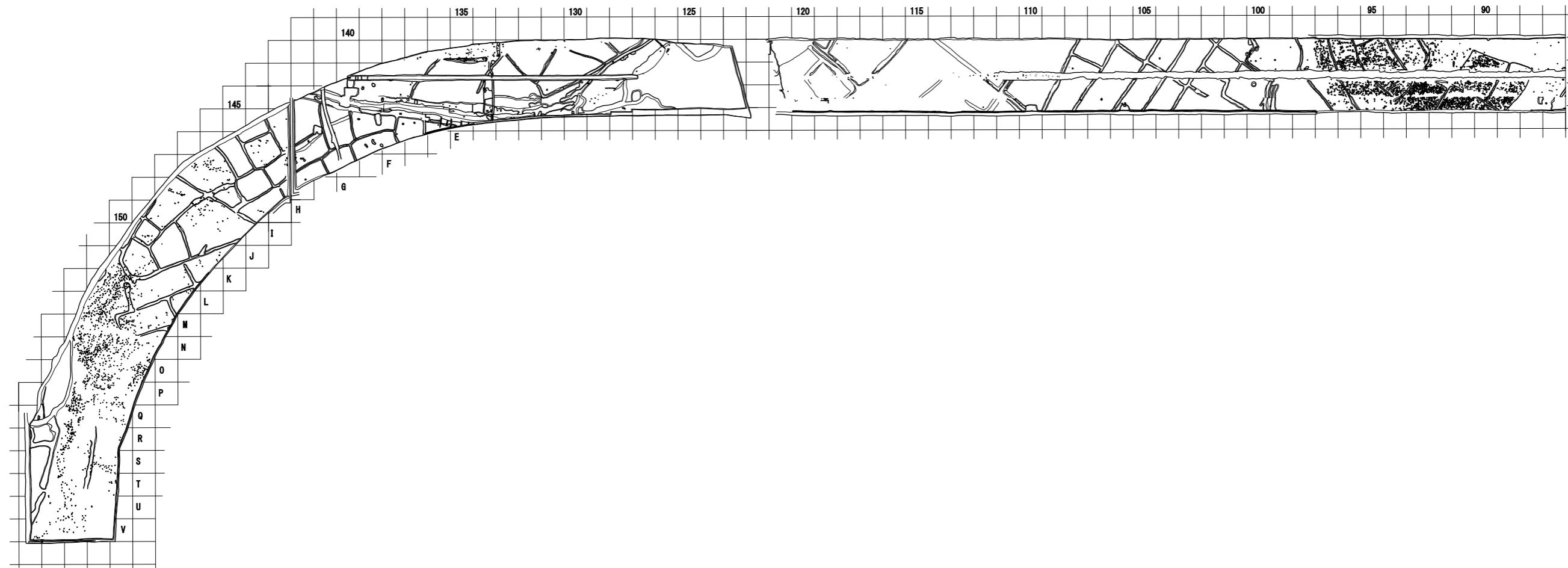
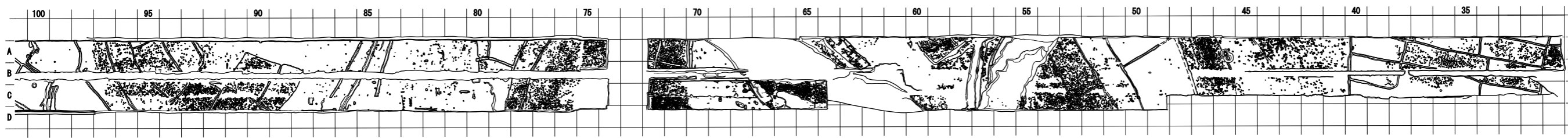




第7図 中地区下層遺構全体図(縮尺1/300)







第9図 中層水田遺構全体図 (縮尺1/1000)

